

◎景気ウォッチャー調査[2020年12月]

2020年12月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を13.3ポイント下回る36.4となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「客の買上点数は微増であるが、新型コロナウイルスの影響で、来客数が減少しているため、売上も減少している。」(スーパー)、「Go To Travelキャンペーンの一時停止の影響もあり、回復しつつあった景気は悪くなっている。」(商店街)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を14.9ポイント下回る32.8となった。

企業動向関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルス第3波の影響で欧州向けの受注が減少している。」(輸送業)、「2021年度の受注残は明らかに減少している。」(輸送用機械器具製造業)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を7.4ポイント下回る47.7となった。

雇用関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「求人数が前年と比べ減少している。」(職業安定所)、「これまでは派遣求人数に派遣登録者数が比例してきたが、現在は派遣求人数がどれだけ回復しようとも、派遣登録者数は減少傾向にある。新型コロナウイルス禍で転職希望者や派遣という不安定な働き方を希望する人が減少しているので市場の求職者の動きが鈍い。」(人材派遣会社)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を13.2ポイント下回る39.7となった。

	12月	11月	前月差
合計	36.4	49.7	-13.3
家計動向関連	32.8	47.7	-14.9
企業動向関連	47.7	55.1	-7.4
雇用関連 (参考値)	39.7	52.9	-13.2

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を4.4ポイント下回る36.9となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの影響がかなり始まっており、このまま感染者数が増加していくと店が開店していても来客数が減少していく。」(百貨店)、「新型コロナウイルスに対して客が過敏になってくるため、景気は更に悪くなる。」(一般レストラン)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を5.0ポイント下回る34.9となった。

企業動向関連は、「Go To Travelキャンペーンの一時停止によって今後製品の出荷量が減少する。自粛ムードが続くため、業務用商品が厳しくなる。」(食料品製造業)、「テレワークがますます増加し、客との商談機会がなくなり、販売機会を逸してしまうため、今後、景気は悪くなる。」(通信業)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を4.7ポイント下回る40.2となった。

雇用関連は、前月と同ポイントの44.1となった。

	12月	11月	前月差
合計	36.9	41.3	-4.4
家計動向関連	34.9	39.9	-5.0
企業動向関連	40.2	44.9	-4.7
雇用関連 (参考値)	44.1	44.1	0.0